

宇  
梶  
剛  
士

Takashi Ukaji

オレは既製品じゃない!

不  
良  
品



SB文庫

## <著者紹介>

### 宇梶剛士(うかじ・たかし)

1962年、東京都生まれ。『ひとつ屋根  
メトラーEIJ12』(NTV)、『ママ  
『GTO』、『お父さんのバックドロップ』など、数々のドラマ  
や映画に出演するほか、舞台では作・演出も手掛ける。バラ  
エティー番組などの出演も多数。

## SB文庫

---

# 不良品 オレは既製品じゃない!

2005年2月25日 第1刷発行

2005年3月25日 第2刷発行

著者 うかじたかし  
宇梶剛士

発行者 稲葉俊夫

発行所 ソフトバンクパブリッシング株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂4-13-13

営業 03(5549)1201

編集 03(5549)1236

印刷 図書印刷株式会社

表紙デザイン・AD 三宅孝(トレードマークス)

表紙写真 永井守

本文デザイン・組版 クニメディア株式会社

---

落丁本、乱丁本は小社営業部にてお取り替えいたします。

定価はカバーに記載されております。

© TAKASHI UKAJI. SOFTBANK PUBLISHING 2005

Printed in Japan

ISBN4-7973-3083-X

江苏工业学院图书馆

不良品  
は既製品じゃない！  
宇梶剛士



装幀◎A D・三宅孝、デザイン・トレイドマークス

写真・永井守

# 不良品



# 不良品

## 目次

闇夜の鴉 (A C R O W I N T H E D A R K)

9

## 第一章 光の中で

家族と過ごした最後の地

18

アイヌの母は活動に没頭

24

## 第二章 闇の扉

小学六年生で中学生二三人を返り討ち

36

父の左遷でメジャーリーガーの夢途絶える

43

高校野球は軍隊生活

52

一六歳の夏、暴力事件で捕まる

67



### 第三章 闇の中へ

構成員二〇〇〇人の暴走族の総長

総長を降りる、また捕まる

少年院でもリーダー格

きっかけはチャップリンの自伝

白紙に戻った日本初「一四日短縮」

### 第四章 光の扉

新たな高校生活でまたもトラブル発生

菅原文太さんに電話一本でもらわれる

初舞台、その足で高校バスケ

息子にもらった希望の光

165 155 147 138

122 114 103 91 80

## 第五章 そして今

トレンディードラマ出演から極貧生活へ急降下

舞台から再びテレビへ

あとから分かった父の想い

過去の自分に出会った衝撃

あとがき

解説

野村真季

222 215

206 198 191 182

闇夜の鴉  
(A C R O W  
I N  
T H E  
D A R K )

忘れられない出会いがある。二〇歳のころだ。

当時、僕は錦野旦（にしきのあきら）さんの事務所に出入りさせてもらっていた。まだ芸能界のことなど右も左も分らないくせに、「俳優になりたい」というオーラを全身から発散していた僕に、事務所の人達はどう用事を言いつけてよいのやら困っていたように思う。

それでも当時の錦野さんのマネージャーだった佐々木さんは、

「なんとかコイツに道を開いてやろう」

とってくれたのか、あるとき声をかけてくれた。

「美輪明宏さんに会わせてやる」

唐突だったが、僕を東京・有楽町のニッポン放送に連れていってくれた。そのときは正直、「美輪さん？どんな人だろう」くらいにしか思っていなかった。

ニッポン放送に到着すると、佐々木さんに、

「ラジオの収録で対談中だから、ここに座っていな」

と言われた。

言われたとおり三〇分ほどベンチに座っていたら、本番が終わったのか、収録スタジオの分厚いドアが開き、見送るスタッフ達とともに中年の男性（後で角川春樹氏と知らされた）が出てきた。

「あのオジサンか？」

と思っていたら、その後ろからまばゆいほどの真っ白なドレスを身にまとった、不思議ないでたちの人が出てきた。

その後、数人のスタッフとおぼしき人達が、「お疲れさまでした」と次々にスタ

ジオから立ち去っていった。

彼らを見送った後、ドアへ目を戻すと、先ほどの白いドレスをまとった人が、ゆつくりと床の上を流れるように僕の方に近づいてきた。首にはドレスと同じ真っ白な羽根飾り。澄んだ大きな瞳と、膨らみのある唇には静かな笑みを浮かべている。

僕は、とりつかれたようにその人から目が離せなくなっていた。

「あなた、暗い道を歩いてきたのね」

どう返事をしたのか覚えていない。その人は、自分のドレスを指してこう続けた。

「まぶしい?」

僕は、「はい」と答えるのがやっとだった。

「暗闇を見つめてきた人には、純白がうんとまぶしいの。純白の中で生きてきた人

は、純白の美しさを見てもさほどの感動は持たないもの。あなたは暗い道を歩いてきたからこそ、純白の白さに感動できるのよ。闇夜の鴉は、どれだけ高く飛ぼうと、どれだけ力強く羽ばたこうと、人にはその姿をとらえることはできないの。いくら叫んでも気味悪がられ、遠ざけられるだけ。あなたは今、ようやく暗いところから飛び出して、明るい世界にやってきたのよ」

これが、俳優を志した僕の支えとなる、美輪明宏さんとの出会いだった。

かつての僕は、闇夜の鴉だった。

小学生・中学生のころは野球に明け暮れ、プロ野球選手になることを夢見ていた。そして、甲子園を目指して高校に入学したものの、野球部での厳しい上下関係が発端となり、挫折した。高校二年生のとき、ある事件をきっかけに退学となり、ひ

たすら闇の世界へと深く深く入り込んでいった。

自分がこうなるのは、すべて大人のせい、社会のせいだと決めつけ、その不満は暴力というかたちで露出した。暴力で周りを圧倒しながら構成員二〇〇〇人を抱える巨大暴走族の総長となり、あげく少年院に収監しゅうかんされた。

こんなどうしようもない闇夜やみよの鴉からすが、真っ白な気持ちになって、この世界で生きていくことが許された過程を、これから素直に語っていきたいと思う。

かつて不良であった僕がこの本に「不良品」というタイトルをつけたのは、不良をひきずっているからではない。

不器用で格好悪いかもしれないけれど、生き方としては既製品きせいひんではない不良品の生き方が、やはり自分には合っているし、その方が僕は好きだ。



「不良」じゃない……  
「既成」きせいじゃない……  
「不良品」